

特定希少野生動植物 vol.6

カスミサンショウウオ（両生類有尾目サンショウウオ科）

日本固有のサンショウウオで、高地型と低地型の2種がいるんだ。岐阜県以西の本州、四国、九州の広範囲に分布。両生類なので、皮膚は粘膜におおわれ、皮膚呼吸に頼っているため、湿っていないと生きていけないよ。

県内では3月頃に、湧き水がたまったところの枯れ枝や葉、朽ち木などにバナナのような形の卵嚢を産みつけるんだ。幼生は水中で小さな昆虫・ミジンコ・イトミミズなどを食べ、6～7月には上陸し、地面にいる昆虫・クモ・ミミズなどを食べているんだよ。夜行性で地面をはって移動し、昼間は石や落ち葉の下に隠れているんだ。繁殖池から数十mも離れた山の枯れ株の下などで、越冬するんだよ。

かつては奈良盆地の丘陵や山麓などに広く分布していたようなんだ。でも、湧き水が枯れたり、里山周辺の開発の影響や水田の水路の水が減ったりして生息地や繁殖池が激減し、いまでは県北部にわずかにいるだけなんだよ。



体長8～10cm。体の側面に、しわ（肋条）が13本。背面は暗褐色から黄土色で、尾の上と下縁の黄色い線が特徴だよ。

県民だより奈良（平成23年1月号）より

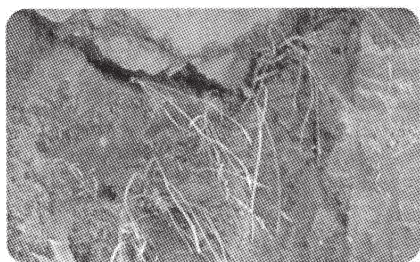
特定希少野生動植物 vol.7

ヒメイノモトソウ（シダ植物イノモトソウ科）

石灰岩地域には珍しい植物が見つかることが多いんだ。なぜかという、この地域は木が密に茂ることがないので、植物どうしの生存競争に弱い植物でも生き残ることができるんだよ。ヒメイノモトソウもそんな植物の一つで、石灰岩の崖から垂れ下がる小さなシダの一種なんだ。自生地は、奈良県と三重県だけで個体数も極めて少ない貴重な植物なんだよ。

写真のように葉（正確には羽片）が細長く、幅がとてまもなく2～4mmしかないのが特徴だよ。

奈良県では川上村だけに分布しているんだけど、50年ほど前に道路の幅を広げる工事で自生地がほとんど失われてしまったんだ。さらなる開発や土砂崩壊などによって、残る自生地の環境を破壊しないよう、十分な注意が必要なんだよ。



大正11年に奈良県川上村で最初に採取され、昭和10年に命名された。学名「Pteris yamatensis」の「yamatenensis」は「大和国産の」という意味。暖温帯域の石灰岩上に着生している。

県民だより奈良（平成23年4月号）より

特定希少野生動植物 vol.8

ナゴヤダルマガエル（両生類無尾目アカガエル科）

ナゴヤダルマガエルは、本州（東海、北陸、近畿、山陽）、四国の瀬戸内海沿岸に生息しているよ。低地の湿地や湿田などで繁殖し、ほとんど移動せず、水辺から離れることがないんだ。トノサマガエルにたいへんよく似ているんだけど、足が短くダルマのような体型にちなんで名づけられているんだよ。かつては奈良盆地に広く生息していたと考えられるけど、宅地化で水田が減ったり、生活雑排水で水が汚れたり、圃場整備で水田が冬の間カラカラになったりして、生息環境が失われているんだ。現在は奈良盆地周辺の山麓など数ヶ所に生息するだけなんだ。

ナゴヤダルマガエルを守るためには、生息地である水田の水管理や除草剤などの農薬散布の制限が必要なんだ。また、大和高原の生息地では「紀伊半島野生動物研究会」が地元小学校などと一緒に毎年5～6月に生息調査を行っているよ。



体の背面にはトノサマガエルと違い背中線が入らない場合が多く、黒褐色の斑紋があり、部分的に緑色になるものもある。また、トノサマガエルは腹面が白色だが、本種は灰黒色の雲状紋が出ることが多い。

県民だより奈良（平成23年5月号）より

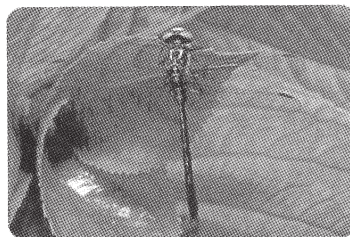
特定希少野生動植物 vol.9

コサナエ（昆虫類トンボ目サナエトンボ科）

体に黒色と黄色の模様をもつ仲間が多いサナエトンボ科の小型種なのでコサナエと呼ばれているんだよ。日本固有種で北海道や東北地方では普通に生息するんだけど、近畿地方では分布が限定される珍しい種なんだ。

山間部のショウブやガマ、ハスなどが繁茂する池や、湿田、休耕田、湿地に生息しているんだ。冬の間は幼虫であるヤゴとして水の中で過ごして、成虫は5月下旬から6月中旬に発生するんだよ。

奈良県では下北山村でしか見つかっていないんだ。北方系の種なので、もともと個体数が少ないんだけど、近年どんどん減っているようなんだ。その要因は、「生息地周辺の森林や水質などの環境悪化や、肉食性外来魚であるブラックバスなどが、ヤゴを食べているからだ」と考えられているんだよ。



腹長が27～32mm程度の小型のトンボ。

県民だより奈良（平成23年7月号）より

特定希少野生動植物 vol.10

ツクシガヤ（種子植物イネ科）

ツクシガヤは、川や池の水辺にまれに生える多年草で、生育地は、奈良県のほか秋田県・山形県・福井県・兵庫県・九州北部と離れて分布しているんだ。イネの近縁種であることから、寒さや病気に強いイネをつくるなど品種改良に利用できないかということで農学関係者から注目されているんだ。

奈良県で確認されている生育地は1か所だけなんだ。ヒノキやアラカシなどに囲まれた小さな池の縁に数株生えているんだけど、だんだん減少しているんだ。減った理由は、まわりの木が大きくなって、暗くなってきたからだと考えられるんだよ。

そのため、土地所有者に頼んでまわりの木を少し伐ってもらったり、種から育てた苗を植えたりしているんだけど、減少は続いているんだ。



短い根茎があって株をつくり、高さは1～1.2mになる。



ツクシガヤの花は8～10月に咲く。

県民だより奈良（平成23年9月号）より

特定希少野生動植物 vol.11

オオミネイワヘゴ（シダ植物オシダ科）

奈良県は温暖な気候と変化に富んだ自然環境に恵まれ、全国的にもシダの種類が多い地域なんだ。オオミネイワヘゴは、常緑性のシダ植物で、名前は「大峰」という県内の産地名が由来となっているんだよ。

自生地は極めて少なく、中国、ヒマラヤ地方に分布のほか、日本で確認されているのは、十津川村と三重県のそれぞれ1か所だけなんだ。かつて下北山村と川上村でも自生が確認されていたんだけど、すでに絶滅したと考えられているんだ。

唯一残っている十津川村の自生地も道路の拡幅や森林の伐採による消失が心配されているよ。現在では、森が暗くなるなど植生の変化による減少も大きいみたいなんだよ。また、ニホンジカによる食害や希少性に目をつけたマニアによる採取にも注意が必要なんだ。



暖温帯域の森林が茂る溪流岸の斜面や森林の草地に接する部分に生育する。

県民だより奈良（平成23年11月号）より